

# 令和7年度 学力向上のための重点プラン【小学校】 新宿区立富久小学校

■ 学校の共通目標

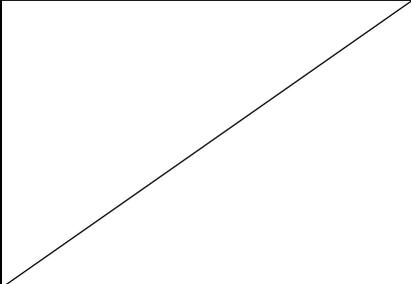
【HP公開用・様式1・令和8年3月16日】

授業作り	重 点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタル教材や学びのツールを効果的に活用し、課題解決を進める。</li> <li>・主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、探究的な課題、協働的な学習に取り組む。</li> </ul>
環境作り		<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人ひとりの考えが尊重され、学び合える学習環境づくりを進め、各教科、領域で対話的な学びを実践する。</li> </ul>

■ 学年の取組について

学 年	学習状況の分析 (各種調査から)	学校が取り組む目標 (日常の授業の様子から)	目標達成のための取組
1 学 年		<ul style="list-style-type: none"> <li>・平仮名、片仮名の字形を整えて書くことや、促音、拗音を正しく使って言葉を書くことができるようにする。</li> <li>・相手を意識して自分の考えを表現できるようにするとともに、相手の伝えたいことを落とさずに聞くことができるようにしていく。</li> <li>・算数では、数の合成・分解、20までの数のたし算、ひき算が正しくできるようにする。</li> <li>・漢字を正しく書けるように定着を図る。</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①プリントを活用し、文字の練習をする。</li> <li>②話し方、聞き方を例示し、話し合い活動が十分に行われるようにする。</li> <li>③デジタル教材や具体物を活用し、数の多面的な見方を育てる。</li> <li>④単位時間ごとのまとめや振り返りを行う。</li> <li>⑤生活科の学習で、探究的な活動を繰り返し行う。</li> </ol>
2 学 年		<ul style="list-style-type: none"> <li>・文字(平仮名、片仮名、漢字)を正しく書くことができるようにする。</li> <li>・自分の考えを主語、述語、助詞の使い方、促音、撥音、濁音に気を付けて、正しく作文したり、表現したりできるようにする。</li> <li>・最後まで、集中して話を聞けるようにすることと、相手に伝わるように、順序立てて話ができるようにする。</li> <li>・繰り上がり、繰り下がりのある計算について、10のまとまりを意識した指導を繰り返し、基礎的な力を身に付けられるようにする。</li> <li>・掛け算九九が確実に習得できるようにする。</li> <li>・言葉や文章の意味を考えながら、文章を読んだり書いたりすることができるようにする。</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①話すこと・聞くことのルールを徹底する。</li> <li>②自分の書いた文章を読み直す習慣づけをする。</li> <li>③具体物の操作を通じた問題解決学習を設定する。</li> <li>④考えを図や式、文章で表現する活動の時間を確保する。</li> <li>⑤デジタルドリル、プリントの活用を通して計算力の向上を図る。</li> <li>⑥書いた文章を友達と読み合うことで、文字や文章の間違いに気付き、修正できるようにする。</li> </ol>
3 学 年	<p>国語</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・すすんで読書、音読に楽しんでいる。</li> <li>・主語や述語に気を付け、文のつながりを考えて文章を書くことに課題がある。</li> <li>・基礎的な漢字の読み書きや読解に課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的な漢字の読み書き、仮名遣いを確実にする。</li> <li>・読書の幅を広げ、様々な表現に触れることにより、語彙を増やす。</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①小テストによる漢字の定着を図る。</li> <li>②音読、日記、スピーチなどの書くことや話すことに慣れさせる時間を設定する。</li> <li>③読み聞かせ、ブックトークを通して、読書の幅を広げる。</li> <li>④プリントやデジタルドリルを活用する。</li> </ol>

	<p>算数</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的な計算はできるようになってきた。</li> <li>・道具を用い、丁寧に作図、測定することに課題がある。</li> <li>・文章題の意味をとらえて、正しく立式することに課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計算を確実に定着させ、正しく活用できるようにする。</li> <li>・道具を適切に使い、正確に作図、測定できるようにする。</li> <li>・文章題をじっくり読み、意味をとらえ、正しく立式できるようにする。</li> <li>・必要な情報を理解、整理し、記録する力を伸ばす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>⑤計算タイムを設定する。</li> <li>⑥道具を適切に使い、丁寧かつ正確に表す機会を設け、習慣付ける。</li> <li>⑦問題に下線を引き、ポイントを押さえ、絵や図に表して考える習慣を付ける。</li> <li>⑧情報を取捨選択し、必要な情報を記録する機会、場面を設定する。</li> </ul>
4 学 年	<p>国語</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主語や述語に気を付けて文章を書くことができる。</li> <li>・基礎的な漢字の読み書きにおいて、課題が見られる。</li> </ul> <p>算数</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・数と計算領域において、前学年までの計算を正確に解答することに課題がある。</li> <li>・問題文の場面をとらえ、必要な情報を選んで解答することに課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的な漢字の読み書きを確実にする。</li> <li>・漢字を正しく使って文章を書けるようにする。</li> <li>・読書により、語彙を獲得できるようにする。</li> <li>・話の中心を意識して、考えながら話したり聞いたりすることができるようにする。</li> <li>・基礎的な計算力を高められるよう、四則計算の定着を図る。</li> <li>・問題の場面を実生活とつなぎ合わせてとらえ、適切に立式できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①漢字小テストを実施する。</li> <li>②毎月読み聞かせをするなど読書環境を整備する。</li> <li>③朝の時間にスピーチの時間を設ける。</li> <li>④週に1回、2文作文を行う。</li> <li>⑤デジタルドリルやプリントを活用して計算する力を身に付ける。</li> <li>⑥数学的活動の機会を充実させる。</li> </ul>
5 学 年	<p>国語</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・聞かれていることに即して的確に答えたり、要旨をまとめたりすることに課題がある。</li> <li>・基礎的な漢字の読み書きにおいて、課題が見られる。</li> <li>・語彙を豊富に使い、適切に漢字を用いて表現することに課題がある。</li> </ul> <p>算数</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・数と計算領域において、前学年までの計算を正確に解答することに課題がある。</li> <li>・自分の経験や思いを話すことができる。一方、話の中心を考えて聞いたり、話したりすることに課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的な漢字の読み書きを確実にする。</li> <li>・漢字を正しく使って文章を書けるようにする。</li> <li>・読書により、語彙を獲得できるようにする。また、あらすじなどを伝える練習を通して要約や要旨をまとめることに慣れるようにする。</li> <li>・話の中心を意識して考えながら、話したり聞いたりすることができるようにする。</li> <li>・基礎的な計算力を高められるよう、四則計算の定着を図る。繰り返し練習するようにする。</li> <li>・自分の考えを式や図などを用いて、分かりやすく表現できるようにする。</li> <li>・協働的な学習を設定し、自他の良さを認め合い、深め合う経験を積めるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①漢字小テストを実施する。</li> <li>②毎月読み聞かせをするなど読書環境を整備する。</li> <li>③デジタルドリルやプリントを活用して基礎・基本の定着を図り、家庭学習においても活用する。</li> <li>④協働的に学習する時間を設定する。</li> <li>⑤朝の時間にスピーチの時間を設ける。</li> </ul>
6 学 年	<p>国語</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・構成を考えて文章を作ったり、文字数に合わせて文章を要約したりすることに慣れてきた。</li> <li>・聞かれていることに即して的確に答えたり、要旨をまとめたりすることに課題がある。</li> <li>・語彙を豊富に使い、適切に漢字を用い</li> </ul>	<p>国語</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漢字を正しく使って文章を書けるようにする。</li> <li>・読書により、語彙を獲得できるようにする。また、あらすじなどを伝える練習を通して要約や要旨をまとめることに慣れるようにする。</li> <li>・話の中心を意識して考えながら、話したり聞いたりすることができるようにする。</li> <li>・文章を引用するときの書き方の技能を、確実に</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①漢字と計算の小テストを実施する。</li> <li>②毎月読み聞かせをするなど読書環境を整備する。</li> <li>③スピーチの習慣化を図る。</li> <li>④デジタルドリルやプリントを活用して基礎・基本の定着を図り、家庭学習においても活用する。</li> </ul>

	<p>て表現することに課題がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の経験や思いを意欲的に話すことができる。一方、話の中心を考えて聞いたり、話したりすることに課題がある。</li> <li>・自分の考えをもち、自信をもって交流することに課題がある。</li> </ul> <p>算数</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタル教材を活用しながら自分の考えをまとめることができるようになってきた。</li> <li>・自分の考えを式や図などを用いて考えを表現したり、まとめたりすることに課題がある。</li> </ul>	<p>身に付けられるようにする。</p> <p>算数</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えを式や図などを用いて、分かりやすく表現できるようにする。</li> <li>・計算の基礎基本を定着させるため、繰り返し練習するようにする。</li> <li>・協働的な学習を設定し、自他の良さを認め合い、深め合う経験を積めるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>⑤ 協働的に学習する時間を設定する。</li> <li>⑥ 教科書の教材をもとに、引用元を明記する練習を行う。</li> </ul>
<p>特別支援</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・得意なことや興味・関心のあることを関連付けた教材等を通じて、楽しみながら学べる姿勢を身に付け、自己肯定感を高める。</li> <li>・気持ちの切り替えや感情のコントロールが苦手な児童には、視覚化することで、今の感情のレベルを気付かせながら指導を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 視覚的支援を併用しながら指示理解の経験を積ませる。</li> <li>② ソーシャルスキルトレーニングを行いながら、少人数の中で成功体験を積み上げる。</li> </ul>

■ 効果的なデジタルドリルの活用について【チェックリスト】【区教委提出用・様式2・令和8年3月16日】

- ☒ 学校は年度当初にデジタルドリルの活用について保護者及び児童へ説明をしている。
- ☒ 学校は活用の際して、IDやパスワードについて保護者及び児童へ説明をしている。
- ☒ 児童及び教員がデジタルドリルの内容や機能について概ね理解している。
- ☒ 学校は児童が授業や家庭学習においてデジタルドリルが活用できるよう促している。
- ☒ 学校は家庭におけるデジタルドリルの活用について具体的に指導している。
- ☒ 学校は全ての学年で定期的に様々な場面でデジタルドリルの課題等を児童に与えている。
- ☒ 担任等がデジタルドリルを活用し、児童一人ひとりの傾向を把握し、適した課題や指導を行っている。

■ 自校における効果的な学力定着度調査を活用した事後指導について

- ・ デジタルドリルとの連携を行い、個別最適化された問題を活用して、学習の振り返りを行った。
- ・ 個人票を基に学習成果を児童、保護者と共有し、次年度への目標設定へと繋げた。
- ・ 昨年度と同様に、今年度も1学期に校内独自の学力調査を実施し、その結果を基に学力の定着具合について確認を行った。その結果を受けて、個人面談を通して保護者との情報共有を図った。

■ 自校における効果的なデジタルドリルの活用について（事前・事後指導を含む）

- ・ 単元の振り返りや、補充的な問題として、各單元の中で活用を行っている。
- ・ 週2回程度、家庭学習の課題としてデジタルドリルを活用する日を設定し、進捗状況の把握を行うとともに、個別指導へと繋げている。次年度は日数を増やしたり内容を吟味したりして、よりよい実施方法について検討していく。
- ・ 長期休業期間中の課題として設定し、進捗状況の把握を行うとともに、個別指導へと繋げている。
- ・ 個別最適な学習への取り組みとしてデジタルドリルの活用を進めているが、日数や回数などは各担任の裁量に任せてしまっているため、次年度は校内での指針となるものを作成し周知していく。

■ HP掲載／内容更新チェックリスト

区教委への様式提出締切日	更新予定日	更新確認者職名・氏名
	<例> 5月19日（月）	主幹教諭・新宿太郎
第1回 5月9日（金）締切	5月23日（金）	主幹教諭・野崎将道
第2回 11月7日（金）締切	11月28日（金）	主幹教諭・野崎将道
第3回 3月6日（金）締切	3月16日（月）	主幹教諭・野崎将道

## 学力向上のための重点プラン【小学校】

## 新宿区立富久小学校

【HP公開用様式例・中間・最終評価】

【中間評価・令和7年11月7日】

中間評価	
○ 成果と▽ 課題	● ▼ 期末への方策等
<p>○小テストや繰り返し学習は計画的に実施できている。</p> <p>○デジタルドリルは、児童が必要なものを選び、学習に取り組むことができる。</p> <p>▽学習したことや自分の考えていることを効果的に表現することに課題が見られる。</p>	<p>●漢字を正しく読んだり書いたり、計算を正確にできるようにになったりするために、個に応じた指導と協働的な学びを改善していく。</p> <p>●デジタルドリルだけでなく、タブレットの機能を児童が必要に応じて活用できるようにしていく。</p> <p>▼校内研究（生活科・総合的な学習の時間）を中心に、学習したことを相手に伝える場面を多く設定し、児童が繰り返し工夫できるようにする。</p>

【最終評価・令和8年3月6日】

期末評価	
○ 成果と▽ 課題	● ▼ 次年度への方策等
<p>○全国学力学習状況調査、児童・生徒の学力向上を図るための調査に加えて、学校独自の学力調査を実施し、その分析から学力の定着状況を把握し、指導の改善に活かすことができた。今後もデータを基に学力定着度を確認することで指導の充実に活かしていきたい。</p> <p>○全学年において音読、日記、文字（ひらがな、カタカナ、漢字）の学習、言葉遣いプリントなどを活用し、継続して学習することにより正しく作文したり、表現したりできるようになってきた。</p> <p>○繰り返しが、繰り返しが、繰り返しがある計算、かけ算九九を確実に習得することができた。</p> <p>▽言葉や文章の意味を考えながら、文章を読んだり書いたりすることや話の意味をとらえて最後まで話を聞くことが課題である。</p> <p>▽量の感覚は育ってきたが、定規などを使って正確に作図したり、計測し、目盛りを正確に読んだりすることに課題がある。</p> <p>▽聞かれていることに即して的確に答えたり、語彙を豊富に用いながら自分の考えをまとめたりすることに課題がある。</p> <p>▽話の中心を考えて聞いたり、話したりすること、自分の考えをもち、自信をもって交流することに課題がある。</p>	<p>●全2回の学力定着度調査の結果を受けて、新年度の学力向上プランを立案していく。</p> <p>●「学びに向かう力に関する意識調査」の結果をより詳しく分析し、全校で活用していけるよう準備を進めていく。</p> <p>●音読、言葉遣いや聞き取りなどのプリント、小テストを繰り返し活用し、さらに基礎・基本の定着を図る。</p> <p>●月1回の読み聞かせやブックトークなどの読書活動を通して、読書の楽しさを実感し、読書の幅を広げられるように指導を工夫する。</p> <p>▼文章を書いた後に、誤字脱字、主語、述語、文のつながりなどを確かめ、わかりやすい文章になっているかどうか自分で確認できるように指導する。</p> <p>▼小テスト、デジタルドリルやプリントを繰り返し活用し、漢字と計算の基礎・基本の定着を図る。</p> <p>▼自分の考えを式や図などを用いて、わかりやすく表現できるようにする。</p> <p>▼総合的な学習の時間や特別活動の時間などを活用した協働的な学習を設定し、自他の良さを認め合い、深め合う経験を積んでいく。</p>

